

閩閩で描く

現代美術家・ 束芋の世界

〔登壇〕 束芋（現代美術家） 河原啓子（芸術思想）

林みどり（ラテンアメリカ文化思想） 菅野聡美（日本政治思想）

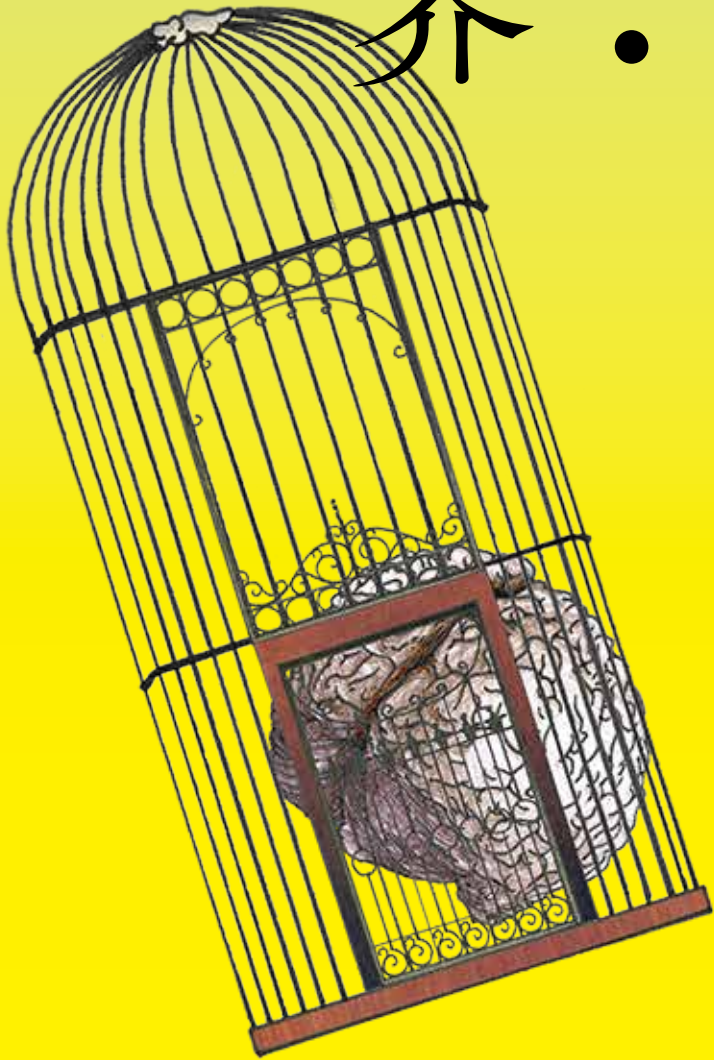
〔日時〕 2017年7月8日（土） 15時～17時（開場…14時30分 定員…200名）

〔会場〕 立教大学池袋キャンパス M201教室（マキムホール／15号館2F）

〔料金〕 無料

〔問い合わせ先〕 立教大学学部事務一課（03-3985-2500）

〔共催〕 立教大学文学部文芸・思想専修、文学研究科比較文明学専攻



閼いき

- 1 内と外を区切る境界に置かれた木。しきみ。
また一般に、さかいめ。敷居。
- 2 【心理学】ある感覚が感知できるか否かの 境目。

不穏な気配が漂う独特な動画やインスタレーションを
生みだしてきた現代美術家・束芋。

彼女の表現活動をつうじて、古典／現代、オリジナル／模倣、
美／醜、生／死、内／外、言語表現／視覚表現など伝統的な
二項対立の境界を侵犯する、現代美術ならではの可能性をかんがえる。
「身体の機能が外に出ているように感じる」とするインターネットと
美術表現の関係について、作品構想はつねに膨大な言葉の海に溺れる
ことから始まるとする言語経験と創作のインタラクションについて、
創造的思索の営みに触れる。



束芋たばいも

1999年京都造形芸術大学卒業制作としてアニメーションを用いた
インスタレーション作品「にっぽんの台所」を発表、同作品で麒麟・
コンテンポラリー・アワード最優秀作品賞受賞。以後2001年第1
回横浜トリエンナーレを皮切りに、2011年には第54回ヴェネチア・
ビエンナーレ日本館代表作家に選出される等、数々の国際展に出
品。近年は舞台でのコラボレーションも展開。2016年はアメリカ、
シアトルで「写し」をテーマにした大規模個展を開催。

[登壇] 束芋 (現代美術家) 河原啓子 (芸術思想)

林みどり (ラテンアメリカ文化思想) 菅野聡美 (日本政治思想)

[日時] 2017年7月8日(土) 15時-17時 (開場: 14時30分 定員: 200名)

[会場] 立教大学池袋キャンパス M201教室 (マキムホール / 15号館 2F)
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

[料金] 無料

[問い合わせ先] 立教大学学部事務一課 (03-3985-2500)

[共催] 立教大学文学部 文芸・思想専修、文学研究科比較文明学専攻



現代美術家・束芋の世界
閼を描く